

地域で取り組むまちづくり

登別地区で開催されていた『フラワーパレットのぼりべつ』のコンセプト『花を育てる心をそだて、生き生きとしたマチにみんなが作りあげよう』。この思いをイベント開催中の数日間だけではなく、一年を通して何かできないかと考えた有志が集い、平成11年『登別まちづくり促進期成会キラキラ部会』の前身となる『フラパレ365委員会』が発足されたといいます。

花で登別を訪れた方をもてなそうと各家庭で種から苗に育ててもらおう『花ボラのぼりべつ』を募ったというキラキラ部会。久住さんは、「より多くの人に参加してもらえるよう、比較的育てやすいマリーゴールドなどを選びました。手間をかけた苗を花壇に植え込み、自分たちの手でマチに彩りを添えることで愛着がわき、やりがいにもつながって、活動の輪も徐々に広がってききました」と20年の活動を笑顔で振り返ります。



▲登別中学校前の『銀のしずくロード』を手入れする会員

温かい季節には、幹線道路交差点に設置した

プランターや銀のしずくロードなどを多くのボランティアと共に管理してきたという久住さんは、毎年、道内のガーデニングなどを見学するバスツアーを企画し、より良い景観づくりにも取り組んできたといいます。

花のない冬の間も、光のイルミネーションでまちを彩ってきたキラキラ部会にとって、活動資金が悩みの種だったという久住さんは、「不足を補うため、地域の店舗に活動資金の募金箱を設置したり、苗市を開催したり、フリーマーケットに出店したりもしてきました。活動を続けることができてるのは、会員だけではなく、多くの人々のおかげ」と話します。

魅力あふれるマチを目指して

来年には、JCHO^{ジュエイコー}登別病院の開院が予定され、JR登別駅前には新たな施設の建設に向けた取り組みが進んでいる登別地区。

さらなるマチの活性化に期待する久住さんは、「キラキラ部会としても、活動を活性化していくために新たな会員を増やし、これまでの活動を生かしながら、協力できることがあれば」と、今日も地域を花で彩ります。



KIRARI

く すみ ゆう こ
久住 祐子 さん (登別東町)

皆さんは、JR登別駅前に設置されているシンボルオブジェ『光のしずく』をご覧になったことはありますか。冬期間に点灯され、道行く人や多くの観光客を魅了する同オブジェは、登別まちづくり促進期成会キラキラ部会によって設置・管理されています。

今号では、設立から20周年を迎えた同部会の設立メンバーで、事務局を担当している久住祐子さんに、同部会の活動とその思いについて伺いました。

市民の力で花を育て、マチを育てる



昭和35年、登別市生まれ。59歳。

北海道ファッションデザイナー専門学校（札幌市）を卒業後、デコレーターとして、さまざまな店舗のディスプレイなどをコーディネート。約20年前、登別市に帰郷してから、両親が経営していた婦人服専門店を引き継ぐとともに、登別地区のまちづくりに積極的に参加している。趣味はモノづくり。